

令和5年11月1日

## 懐かしい渋柿の焼酎漬け

南九州市立霜出小学校  
校長 石川 雅実

先日、小中連携研修会が行われました。会の途中、次のような俳句が浮かびました。焼酎で甘味加わる渋柿や。小中という言葉から焼酎を発想する安易な句です。9年間の教育活動を通して、子どもたちが心豊かに成長し、輝いてほしいという願いも込めました。

この時期になると思い出すことがあります。実家に渋柿の木がありました。実がなると父が収穫し、渋柿の焼酎漬けを作っていました。漬けた日は家中に焼酎の匂いが充満し、子どもの私にとってはとても臭く、不快に感じていました。数日経つとその嫌な匂いも甘い香りに変化します。渋柿が甘くなることに対する驚きと美味しく食べることのできる喜びを感じていました。

他界した父親は焼酎が大好きでした。渋柿を漬ける焼酎を少なめにし、余ったと言って飲んでいたように記憶しています。柿好きの母も容認していたようです。忘れられない秋の懐かしい思い出です。

子どもたちも実りの秋を迎えてほしいと思います。

令和5年11月2日

## 読み聞かせで温かい思い出を刻む

南九州市立霜出小学校  
校長 石川 雅実

読書に最適な季節になりました。読書週間は11月3日の文化の日を中心にして、前後二週間と定められています。今年も読書週間がスタートしました。

本校では11月を校内読書月間と位置付け、読書に関する様々な取組を行います。図書室での新刊コーナーの設置、読書標語の紹介や表彰、読書郵便、読書ビンゴ、図書委員会児童による読み聞かせ会などの活動に取り組みます。図書室に足繁く通う子どもたちの楽しそうな姿が多く見られることでしょう。

最近では電子メディアに押され、子どもたちの活字離れが懸念されています。読書は遠い歴史を遡ることも、世界の国々を旅することも、あるいは宇宙の彼方へ夢を馳せることも可能です。想像力や表現力の育成、語彙力の向上にもつながります。

秋の夜長は親子読書などいかがでしょう。特に親からの読み聞かせは、本の内容理解はもちろんのこと、忘れられない親子の温かい思い出として、記憶にもきっと刻まれるはずです。

令和5年11月7日

## 我が家の読み聞かせの後悔

南九州市立霜出小学校  
校長 石川 雅実

長男がある国語科の研究会に参加し、自宅に戻ってからの親子の会話です  
「やはり家庭での読み聞かせは大切だ。読み聞かせの教育効果を今日の研究会で再確認した。勤務先の小学校でも啓発活動に力を入れないといけない。我が家はお母さんが読み聞かせをよくしてくれたね。お母さん、ありがとう。」

「ちょっと待って。お父さんの読み聞かせは覚えてないの。お父さんもよくしていたと思うけど。」

「あまり記憶がないな。妹は覚えているかもよ。」長女は不在でしたが、同じ返答が怖いので、これ以上の詮索はやめておきました。

我が家の子どもたちが小学生になってからも、よく読み聞かせをしていたと自負していたので、ショックを隠せませんでした。

子育て中のお父様方、読書の秋だけではなく、心に残る読み聞かせを継続して行ってください。私のように後悔する日が来ないようにしてください。

妻が笑みを浮かべ、機嫌よく振る舞う姿が印象的な夕食時間となりました。

令和5年11月9日

## 大切にしたい防災意識と自然への畏敬の念

南九州市立霜出小学校  
校長 石川 雅実

本日、地震とそれに伴う火災の避難訓練を行いました。地震や津波に限らず、災害はいつ起こるか分かりません。最近では十年に一度と言われる大災害が、毎年どこかで起こっています。災害種毎の防災マップ、防災グッズ、連絡体制等の確認が必要です。これまでの教訓を防災や減災に生かしていきたいものです。

学校でも各種避難訓練を行っています。いざという時に備え、教児共に自ら考え、判断し、実際に自分の命を守る行動が取れるように、防災意識を更に高く持ち続けたいと思います。学校の危機管理マニュアルも常に改善を図りたいと思います。

登下校中や休日といった学校以外での被災時の避難場所や避難方法等を家族間で共有することも大切です。具体的できめ細やかな話し合いを通して、防災や減災に努めてください。

一方、自然に対する畏敬の念も大切にしたいものです。また、持続的な自然環境保護活動にも関心を寄せ、身近なことから行動に移していきたいと思います。